

平成 29 度 第 3 回狭山市文化財保護審議会 会議録

開催日時 平成 30 年 3 月 29 日 (木)
午後 2 時 00 分から午後 4 時 00 分まで
開催場所 教育委員会室
出席者 高橋委員長、林副委員長、権田委員、橋本委員、日吉委員、宮瀧委員、名雲委員、川田委員、樋口委員、岩本委員
欠席者 なし
事務局 向野教育長、滝嶋生涯学習部長、田中社会教育課長、吉田主幹、石塚主査
傍聴者数 0 名

議 題

1 平成 30 年度文化財保護費予算について

資料に基づき事務局より説明を行い、資料のとおり承認される。

質 疑

委員長 予算については、第 2 回審議会でも審議したところでもあり、特に質問がなければ次の議題に移りたい。

議 題

2 狭山市指定文化財の新指定候補について

資料に基づき事務局より説明を行う。次のとおり質疑等があったが、資料のとおり承認される。

質 疑

委員 埼玉県内の注口土器の指定が計 10 件で、そのうち土器の単独指定が 4 件と比較的少なく、同一時期のものもない。先ほどの指定候補選定理由からも、十分指定に値すると思われるが、指定手続きにかかる書類作成の際、平易な表現に留意してほしい。例えば時代の説明についても、加曾利 EⅡ 式土器などの専門用語をなるべく使わず、「今から約 4000 年前」といった市民にもイメージしやすい表現にしてほしい。

委員 実物を見ると、結構大きなものなので驚いている。一般的な注口土器は、もっと小さなものが多いようだが、その意味でも他の自治体の指定土器との差が明確だと思う。

委員 土器が出土した稲荷上遺跡について、どのような遺跡であるか説明してほしい。

事務局 稲荷上遺跡は下奥富に所在する。集落開始時期は、市内最大の縄文時代の集落遺跡である宮地遺跡より若干後で、中期末になって規模が拡大する。甲信地方の土器が比較的多く出土しているのが特徴としてあげられる。

委員 指定されると公開や活用の機会が多くなると思うが、このまま使うには復元が粗

いように思える。今一度手を加えて、見栄えを良くしたり、接合を強固にする必要がある。修復を業者に委託すると高額になるが、狭山市が全額を負担するのではなく、クラウドファンディングなどの方法で、市民の協力を得る努力をしていく必要があるのではないだろうか。同時に「土器修復」という一過性のものではなく、大きく「文化」という観点からも、文化財保護という根底的な部分について底辺を広げていく努力を続けてもらいたい。

事務局 修復方法や経費、保護意識の高揚などについては、今後検討していきたい。

委員 名称の問題であるが、注口付壺形土器とする意味は何か。

事務局 一般的な注口土器は縄文時代後期以降の土瓶形・急須形のもので、それ以前の注ぎ口が付くものは、注口付深鉢、注口付浅鉢等の名称が与えられているようである。いずれも土瓶形といった定型化する以前のものである。そのような観点から、注口付壺形土器としたい。

委員長 名称の点については今後検討の余地を残すが、類例の調査も含めて、今後指定に向けて事務を進めていただきたい。

委員 指定後はホームページ掲載のほか、市立博物館で展示を行うことも検討してもらいたい。

議 題

3 その他報告事項

資料に基づき、事務局から報告を行う。次のとおり質疑があった。

質 疑

委員 綿貫家「西東」の碑の説明板について、指定文化財ではないのに説明板を設置した理由はなにか。

事務局 「西東」の碑は、大野家より狭山市に寄贈された石碑で、数少ない綿貫家関連資料として貴重である。今回、徳林寺の好意により、福德院地藏尊の綿貫家墓地の隣接地に移設することになった。碑文が漢詩であることから一般人にはわかりにくいため、見学者の理解を促すうえで説明板を設置した。また、両面に碑文が刻まれているが、西の面は綿貫家の庭の様子が描写され、東の面には所有地の測量基準点であると述べられており、内容が異なっていることも併せて記載した。

委員長 指定文化財ではないとのことであるが、綿貫家の資料として重要であるなら、指定対象とすべきでは。検討してもらいたい。

事務局 指定も視野に入れて、今後検討したい。

委員 市立博物館の企画展であるが、狭山市の歴史、文化等を伝える企画展を積極的に開催していただきたい。また、学校教育との連携も意識していただきたい。

事務局 教育委員会との共催の際、十分に協議して企画したい。